

第36回 どうして今、Facebookなのか

今回のゲスト

0

『Facebook バカ』誕生のきっかけ

たのしもうと思えば「たのしいこと」は、無数にみつける

後発本にも、読者に伝えられるメッセージがある

手書き文字を使った装丁へのこだわり。

友達を365日たのしませる男とは？

今回は、アキレス腱断裂により全治一ヶ月の入院中だった美崎研究員のお見舞いに来られたアスコム編集長の黒川さんをつかまえて収録。「美崎本を最もたくさんつくっている編集者」である黒川さんと美崎さんタッグの最新刊のテーマはずばり Facebook。でも、なぜいまこのテーマの本なのか。企画の背景をおうかがいました。

サブタイトルのとおり、「365日友達をたのしませる」と入院中もフェイスブックの更新を続けていた美崎研究員。「更新しようと思って毎日ネタ探しをしていたから、結果的にたのしい入院生活になった」と言います。Facebookは、日常の中で、意識しなければ見過ごしてしまいそうな小さなたのしみを発見できるツールなのかもしれません。「お見舞いの一環で、増刷を報告しました(笑)」という黒川さん。ハプニングも販促のための話題づくりに変えてしまうお二人の抜群のコンビネーションを見ました。

最初は「Google+」をテーマに本を書こうという話だったそうですが、リサーチの結果「Google+は盛り上がっていない」と判断。テーマをFacebookに急遽切り替えたそうです。しかし既にFacebookの本は世の中にたくさんありました。どこで差別化するか。黒川さんは「Facebookはこれからまだまだ盛り上がる」と思ったと言います。著者の美崎さんが徹底的に検証したのは、「いいね」がつく投稿とつかない投稿の違い。黒川さんは言います。「どんな記事を書けば友達に喜んでもらえるのかが、一般読者の知りたいことだとわかったんです。本書の中に“ノイズ野郎”という表現が出てきますが、喜ばれないことをどンドン投稿して“ノイズ”にはなりたくない。でも静かにしているのはおもしろくない。そういう読者の悩みに答える一冊なんです」。

デザイナーさんと何時間もプレストをして“感覚的に「いいね」を押してもらえるようなデザインにしよう”というコンセプトにたどり着いたという黒川さん。数ある写真の中から、“子どもが落書きをしている写真”を使うセンスはきっと、黒川さんご自身が、溺愛する娘さんをお持ちのお父さんだからなのかなあと思いました。

黒川精一(くろかわ・せいいち)さん

黒川精一(くろかわ・せいいち)さん

1971年生まれ。株式会社アスコム。編集長。最新担当書は『iPhone バカ』。『iPad バカ』『ルフィの仲間力』『残念な人の仕事の習慣』などのビジネス書、『NHK ためしてガッテン 野菜のすごい鉄則』『ボケない100歳 2309人がやっていること』などの生活書を編集。4歳の娘を溺愛中。家族というよりiPhone、iPadという時間のほうが長い。

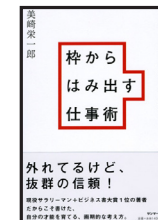
黒川さん担当

『Facebook バカ』<http://amzn.to/ldqH8d>
好評発売中。



Facebook バカでバカシリーズの三冊目になりました。黒川さんとは毎回、ゼロから企画を立てる楽しさを一緒に体験させてもらっています。

リスナーへお知らせ！



「仕事の楽しさ研究所」

Facebook ページを作りました。

→ <https://www.facebook.com/misaki.podcast>

『サクラからはみ出す仕事術』発売中

こちらをクリック！ → <http://amzn.to/dShb3I>

この番組へのご感想や、こんなゲストを呼んでほしい！
などのご要望を随時募集しています。こちらにご連絡ください。
a16.misaki@gmail.com

今回のゲストは・・・
著名人のボイストレーニングも手がけるボイストレー・プロデューサー大槻水澄さんです。